

記載日 年 月 日

生殖医療専門医への紹介状 乳腺科 主治医記載

【生殖機能温存の対象患者は以下となります】

- 原疾患の治療により卵巣機能の低下が予想される方
- 妊孕性を温存する方法（以下本法）を施行することが原疾患の治療の実施に著しい不利益とならないと判断される方 **×**再発乳がん **△**再発リスクが極めて高い（ER 陽性）
- 本法実施は採卵時年齢 43 歳未満（戸籍謄本または抄本の提出が最終的には必要）
- 凍結卵子融解利用は 50 歳未満（女性加齢によって母体や児の異常の発症頻度が増加することが知られており、原疾患治療によって利用できない期間が長くなっても制限）
- 推奨される紹介時期は薬物療法開始前です

施設患者 ID 氏名 生年月日(西暦) 年 月 日

- 本患者に対する生殖機能温存への主治医の意見
（ 本人の希望があれば可 できればしないほうが良い ）
理由：
- 生殖機能温存の開始可能時期（ 年 月 日 ）
（固形腫瘍では原疾患病巣摘出後、血液腫瘍では寛改期または化学療法の間）
- 本法（採卵）に際して原疾患の治療開始を待てる期限： 年 月 日頃まで
（採卵までに最短 2 週間、2 周期なら最短 6 週間程度を要します）
- 原疾患の状態・予後など
 - （左 / 右 / 両側）乳がん
 - 臨床病期 （ I / II A / II B / III A / III B / IV ）
 - 病理組織結果
悪性度（ 1 2 3 ） ER and/or PR（ + / - ） HER2（ + / - ）
Ki67（ % ） リンパ節転移（ 無 / 有 個）
- これまでの治療
手術（手術日 年 月 日 術式： 再建 有 / 無 ）
放射線治療（部位 Gy）
薬物療法（抗がん剤：レジメン名 期間 ）
（ホルモン剤：レジメン名 期間 ）
（分子標的治療剤：レジメン名 期間 ）

- 今後の治療予定
- (手術 化学療法 放射線療法 ホルモン療法 その他) (重複回答可)
- 手術(予定手術日 年 月 日 術式: 再建 有 / 無)
- 放射線治療(部位 Gy)
- 薬物療法 (抗がん剤:レジメン名 期間)
- (ホルモン剤:レジメン名 期間)
- (分子標的治療剤:レジメン名 期間)
- 術前化学療法予定の場合には手術後に変更可能かどうか
(可能 不可能 理由:)
- 治療開始予定時期 (年 月 日ころまでに開始)

- 患者および家族への説明
- 生殖医への紹介にあたり下の事項について文書を用いて説明されているか?
- (1) 乳がんの病状と予後
(有 無:理由)
- (2) 今後の治療予定とそれに伴う卵巣機能の低下の関連性
(有 無:理由)
- (3) 生殖機能の温存が乳がんの予後に与える影響がある可能性
(有 無:理由)
- (4) 妊孕性を温存する方法として
未受精卵子・受精卵・卵巣を凍結・保存する選択肢があることの説明
(有 無:理由)

*紹介テンプレートとデータが同時送付でない場合、以下検査日・結果記載

【必要な検査結果】あれば添付

- 感染症 クラミジア・トラコモティス IgG () /IgA 抗体 ()
HBsAg () HCV () TPHA () HIV ()
- AMH:() (自費、術前検査と同時にできていることが望ましい)
- LH () /FSH ()
- 合併症の有無 ()
- アレルギーの有無 ()
- 出血傾向・凝固異常の有無 ()
- 添付する結果なし ()

【生殖医療医から乳腺外科医へ】

- 生殖機能温存の有無 (有 無：理由)
- 生殖機能温存の方法
(卵子凍結保存 受精卵凍結保存 卵巣凍結保存)
- 生殖機能温存の時期
① 年 月 日 ② 年 月 日
③ 年 月 日 ④ 年 月 日
- 排卵誘発の有無 (有 無)
- 排卵誘発の方法 ()
- 排卵誘発の回数 (回)
- 卵子または受精卵の凍結保存個数 (卵子 個、 受精卵 個)
- 生殖機能温存時の状況
(通常通り 特記事項 有：)
- 治療開始可能時期： 年 月 日 ころから可能
- 今後の注意事項
- 凍結卵子・受精卵を使っでの妊娠の推奨時期 (あれば)